

平成29年度第6期第6回中原区区民会議

日時 平成29年10月3日(火) 14:30～

場所 中原区役所5階 503会議室

午後 2 時30分 開 会

出席者：成田委員（委員長）、井上委員（副委員長）、橋本委員（副委員長）、内田委員、梅原委員、小野山委員、梶川委員、鈴木晴美委員、関口委員、田邊委員、中森委員、萩原委員、森委員、柳沢委員、山崎委員

【委員 15 名】

押本参与、松原参与【参与 2 名】

向坂区長、永山副区長、池谷担当部長、峰部長、大塚所長、浅川副所長、南担当部長、山田所長、松山課長、小野企画課長、相澤課長補佐、中野職員、澤村職員、山口職員

【事務局（中原区役所）14 名】

【市民文化局 3 名】協働・連携推進課 藤井課長、金子担当係長、
区政推進課 山崎課長

岩下【コンサルタント（㈱カイト）1 名】

傍聴者：なし

1 開会

司会 皆様、お疲れさまでございます。それでは、定刻となりましたので、ただいまから第 6 期第 6 回中原区区民会議を開催させていただきます。本日の会議の議事に入りますまでの間、進行を務めさせていただきます副区長の永山でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は過半数の委員に御出席をいただいておりますので、川崎市区民会議条例第 6 条第 2 項の規定によりまして、本会議が成立しておりますことを御報告申し上げます。

なお、本日の会議は会議公開条例に基づきまして公開で行われます。また、会議録を作成し、公開することとなりますので、御了承をいただきたいと存じます。

本日、安藤委員、伊藤委員、岩崎委員、児玉委員につきましては欠席との御連絡をいただいております。また、鈴木功士委員及び小野山委員におかれましては、遅れて出席されとの御連絡をいただいております。

市古参与、大庭参与、原参与、吉岡参与、川本参与、君嶋参与、たきた参与につきましては、所用により欠席との御連絡をいただいております。また、重富参与はおくれて出席されとの御連絡をいただいております。

それでは、中原区長の向坂より御挨拶を申し上げます。

区長 皆さん、こんにちは。紹介ありました中原区長の向坂でございます。本日は、お忙しいところ、委員及び参与の皆様におかれましては、第 6 回中原区区民会議にお集まりいただき、ありがとうございます。第 6 期の区民会議といたしましては、予定でいきます

と、この第6回、次の第7回で終了というようなことで、後ほどまた、スケジュールのほう、あるかと思えます。今回につきましては、前回の会議の段階で、これまでの中間報告等の御審議を踏まえて、皆様がみずから取り組み、実践をということで3つの部会に分けて活動されることとなりまして、その部会での協議の結果等をその状況報告という形で議題に上げていただいております。活発にそれぞれの部会相互の中で意見交換をしていただいた部分もございますし、また、違う部会に御参加の方々の意見をこの全体会の中で意見交換していただければと思います。それぞれまた、実際に中身が決まりましたら、地域等の活動という形で実践に結びつけていただけるという内容になっていけばいいかなと思っております。

また、このところ、区役所も大分忙しくなっておりまして、今月22日には市長選挙及び衆議院総選挙ということもございます。また、委員の皆様におかれましては地域で、秋ということで各イベント、いろいろ開催があると思っておりますので、ぜひとも健康には留意をいただいて、御活躍いただければと思っております。

本日は活発な御意見をいただくということを心から願いながら、簡単ではございますけれども、私からの今回の御挨拶とさせていただきます。本日、どうぞよろしく願いいたします。

司会 続きまして、事務局より本日の資料の確認をさせていただきます。

事務局 事務局より資料の確認をさせていただきます。

お手元にごございます資料でございますが、まず、一番上に本日の次第がございます。

続きまして、別添1で座席表、別添2で出欠状況ということで名簿が載っております。これは全委員さんの名簿でございます。

あと、本日使用いたします資料1、資料2、資料3-1、資料3-2、資料3-3、資料4-1、資料4-2、各部会の報告の資料をそれぞれ分けて、こちらで御用意いたしました。それと、第6期中原区区民会議スケジュール（案）ということで参考資料1、1枚物が1つと、前回の区民会議の会議録と、A3でございます「(仮称)今後のコミュニティ施策の基本的な考え方」検討方針ということで、参考資料3を御用意しております。

すみません、ちょっと資料に戻りまして、別添1の座席表でございますが、森委員の名前が抜けております。申しわけございません。柳沢委員と萩原委員の間に森委員のつけ加えをお願いいたします。失礼いたしました。

あと、本日の会議資料とは別に参考として入れさせていただきました。毎年こちらの席で配付しておりますが、中原区青少年吹奏楽コンサートのチラシとひとみ座寄席のチラシとかわさき川柳の募集ということで、チラシを3種類ほど御用意させていただきました。

以上でございます。もし資料がなければ挙手をお願いいたします。

司会 以上、資料について御確認させていただきました。資料が不足している方はお申し出をいただきたいと思います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

司会 それでは、ここからの進行につきましては成田委員長にお任せしたいと存じます。成田委員長、よろしくお願いいたします。

成田委員長 それでは、ここからの議事は私が進行を務めさせていただきます。皆様、改めてこんにちは。よろしくお願いいたします。

先ほど向坂区長からの御挨拶にもありましたように、いよいよ10月という月を迎えまして、きょうは委員の皆様方の中にも欠席される方がたくさんいらっしゃいますが、それぞれの活動されている場で、また、それぞれの地域でいろいろ行事ですとか、イベントが続きまして、忙しい月間になるかと思えます。この区民会議も前回6月からもう4カ月たったということで、今回また、改めて気を引き締め直して進めていきたいと思っております。皆様、最後まで円滑な議事進行に御協力いただければと思います。

2 会議録確認委員の選任

成田委員長 それではまず、会議録確認委員の選任を行いたいと思いますが、前回は児玉委員と鈴木功士委員にお願いしましたので、名簿の順番で大変恐縮ですが、今回は鈴木晴美委員と関口委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

成田委員長 それでは、お二方、よろしくお願いいたします。

3 議題

成田委員長 それでは早速、次第に従いまして議事を進めていきたいと思えます。

(1) 各取組検討・実践部会報告

成田委員長 まず初めに、各取組検討・実践部会報告をお願いしたいと思います。それに先立ちまして、前月、9月20日に運営部会を開催いたしましたので、その内容につきまして運営部会副会長であります橋本副委員長から簡単に説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

橋本副委員長 それでは、運営部会について報告をさせていただきます。9月20日の午後、7名の委員出席で会議を開かせていただきました。3つの部会から報告をいただきまして、それについて確認させていただきました。この後、それぞれの部会から詳細について報告があるということでございますので、内容等については省略させていただきます。

成田委員長 続きまして、各取組検討・実践部会の状況報告をそれぞれの部会長からお願いしたいと思います。

まず初めに、川崎フロンターレ親子サッカードリム教室の部会長であります井上副委員長に御報告をお願いいたします。

井上副委員長 こちらの実践部会は体験型の防災プログラムの実施ということで、既に10月15日、もう来週の日曜日に等々力陸上競技場で行われます中原親子サッカードリーム教室の場で6つの防災に関する取り組みをしていこうというふうに決まりました。内容は資料に書いてあります。まず、車いす体験、ロープ結び、非常時の食事体験、多言語コミュニケーション、簡易トイレ、防災クイズという、以上6ブースを競技場メインスタンドのコンコースのところで設置して、当日、来場する500組、1000名の中原区民の親子、小学校1年生から6年生の方たちに体験していただくという流れになりました。

こちらのほう、資料がもう1つございまして、資料2というページを1枚めくっていただきたいんですけども、こちらが実施する地図になります。こちらのほうは等々力陸上競技場諸室図になっておりまして、皆さんに見ていただきたいのは上の3階部分のところにコンコースというものがございまして、お客さんのほうは観客席に荷物等々を置いていただいて、休憩場所として活用していただきます。

ちなみに、競技場の左下のあたりのBゲートから入退場していただいて、観客席に入ってくださいという流れになりますので、ちょうどこのコンコースの部分がお客さんがサッカー教室をやっていない時間帯は滞留する場所になりますので、そこで今言った6ブースを設置して、皆さんに防災関係の取り組みについて触れ合っていただくということになっております。

今回、委員の皆さん方にはそれぞれできることをということで、担当から全部振り分けさせていただきまして、各自がかなり自発的にやっていただいたので本当に助かっています。なので、あとはもう日にちを迎えて、来てくれた方たちにどれだけ触れ合っていただけるかということになってきますので、その辺は私たち川崎フロンターレのほうもしっかりPRできるようにやっていきたいとなっています。

1つ工夫としては、実はブースとして人がにぎわうような部分に関しては、実際には5ブースになります。それが一番上の車いす体験から、下から2番目の簡易トイレの部分になっています。一番下の防災クイズというのは、実際にこちらは1ブースで何かクイズを答えていくという形ではなくて、5ブースで問題を出題してもらって、各ブースでのスタンプラリーという形にもしていますので、サッカードリーム教室の受け付け時にクイズ用紙を渡して、時間があいているときに全てのブースを回っていただいたら景品が出るというような流れの防災クイズ形式になっていますので、1つのブースへ行ったら終わりという形ではなくて、なるべく多くの人に触れ合っていただきたいという工夫をここで入れているというのが1つありますので、皆さん御承知おきください。

成田委員長 続きまして、中原区総合防災訓練部会長でいらっしゃいます内田委員より御報告をお願いいたします。

内田委員 総合防災訓練部会から報告いたします。

総合防災訓練部会は、部会長は私、内田と隣におります副部会長の梅原委員を含め、部

会委員は7名で構成しています。

資料1の右上の部会の活動報告欄に記載のとおり、部会を7月27日、9月8日に開催し、今年度区内で行われる2回の総合防災訓練へ部会ではどのようなかかわり合い方をしていくかを話し合いました。ここに記載されています実践内容の総合防災訓練（大戸地区）への見学ということで9月3日に行われた防災訓練には、日にちが迫っていたことや、部会の中でも防災訓練に主体的にかかわったことがない委員が多かったことから、まずは1度はしっかりと見てみるということで見学を主体として取り組みました。当日は部会の委員だけでなく、区民会議委員全員に呼びかけ、15名が参加し、各展示ブースの見学や体験、また、避難所開設手順確認案内ツアーに参加しました。

資料をめくっていただいて、資料3-1、会場のレイアウト図です。レイアウトは、災害発生直後、そして、その翌日以降、さらに、それ以降の時系列に配置されていました。その様子は次の資料3-2の写真で見ていただければわかるかと思いますが、多くのブースを配置していたのが印象的です。特に個人的には、避難生活が始まったら必ず必要となるアウトドアッキングやグッズなどが参考になりました。この写真の中でもありますが、体育館の中でお医者さん、あるいはマッサージ師による体のケアが特に目立って、避難所が過酷生活を強いられるところであるということを実感していただいたところも見えてまいりました。さらに、備蓄倉庫の見学コースが設けられていまして、その備蓄倉庫の中を見ることができました。特にこの大戸小学校は、私どもの住吉小学校の備蓄倉庫も見てはおるんですが、その3倍あるいは4倍相当の量が保管されているのが確認できました。しっかりと備蓄されているところ、あってはならないことに対しての使用方法等、下小田中の町会の方々の説明を受けることができました。

続いて、資料3-3は、当日参加された委員から気づいた点について書いてもらい、提出されたものを資料として用意いたしました。この資料は参加者の一部の意見ですので、後ほど意見交換の中でも御意見など出していただければと思っております。私たちの部会もこの防災訓練の後に部会を開催し、今回の防災訓練に関して意見交換をしましたが、そのときの主な意見としては、防災用品が随分進化しているという印象、各ブースで丁寧に説明していただいたこと、備蓄倉庫にあるものを頼るのではなく、自分でも備蓄しておく必要性を認識しました。会場のレイアウトは時系列に配置されていたものの、先ほども申し上げさせていただきましたが、災害が起き、そして当日、翌日、あるいは翌日以降とせっかくすばらしい会場レイアウトではありましたが、現場の会場には白線が1本あるだけで、それが次の日に続くんだよという表示がなく、今後の課題なのかなと感じているところです。町会の方々も、ヘルメットをかぶって御自分の町会名が見えてはいたんですが、やはり段取りというのか、準備のほうにかかってしまったのか、目立ったのは招聘された企業の方々のブースだったような気がします。そして、住民の方の参加が少なかったのではないかなというような、説明しているブースの中で興味のあるところは多くの方々が

たんですが、校庭というか、かなり遠くの先にある消防隊員の方たちの活動がよく見えているのが印象的でした。当日までの間にいかに広報していくかというようなことも感じ取ることができました。各家庭での備えの大切さの広報をどのようにしていくべきかが、またさらに感じるどころでした。

部会で今回の防災訓練を見学し、意見を共有することができたことを踏まえ、2月に行われる予定の総合防災訓練のかかわりについて、先ほどの資料1の第2回総合防災訓練、平成30年2月に行われる予定であるところに対して、部会としてはどのような対応をしていくのか、次回の部会のときに検討していきたいと思っていますところでは。

総合防災訓練部会からの報告は以上です。ありがとうございました。

成田委員長 続きまして、3番目になります中原区総合防災マップづくり部会長であります萩原委員より御報告をお願いいたします。

萩原委員 中原区総合防災マップづくり部会としまして、9月15日に部会を開かせていただきました。部会長は私、萩原と副部会長は内田委員をお願いしまして、含めて11名でさせていただきました。

防災マップの概要と背景につきましては、今まで中間報告書にもございますので、区民会議の中でもう1年以上にわたり、どんなに防災マップが必要かということについては、皆さん、意見が一致したところがございますので、ぜひ今回、中原区で発行されます予定の防災マップの中に区民会議らしい提案をできる限り入れていただきたいということで話し合いもし、御要望して、またこれから先の検討につなげたいと思っています。

大体の作成イメージですけれども、資料4-2をごらんいただきまして、まだ本当に未確定ではございますけれども、何しろこの1冊があれば中原区の総合防災マップとしてはもう保存版、これにもう集約できるくらいなるべくたくさんの情報を入れたいなと思っています。ポイントとしては、とにかく見やすく、字もなるべく大きく、イラストも多用してというような形で、皆さんがとっつきやすいような防災マップにしたいと思っています。むしろ無関心な方が多かったり、本当に危ない目になっていなかったり、また、情報弱者のことも踏まえまして、日ごろから啓発というか、お互いに御近所同士で助け合うというようなことも含めまして、どんな備えをしたらいいかということも含めて、こういうものがあると本当にいいなというふうに思って、その願いを込めていきたいと思っています。

このイメージからいきますと、中には地域マイマップですね。なるべく書き込みができるようなDIG訓練に使えるような、自分の住んでいるところはどこなのか、避難所はどこなのか、どこに町会長さんがいるとか、親がどこに勤務しているとか、まず、そういう自分の情報なんかも書き込めるようなものを入れたいと思っています。

あとは「備える。かわさき」が最新版になっておりまして、これにはもう本当に、例えばこの辺の方々は関心のある高層マンションでどうしたらいいとか、そういうことが全

て、すごく見やすくなっております。これがまた、3年ぐらい前に「やさしい日本語」を含めて7カ国語バージョンが出ております。それが川崎市のホームページから飛びますと、ポルトガル語、タガログ語まで出てくることになっておりまして、また、中原区の防災マップそのものもバージョンがございます。それに気がつきまして、今回のものに全部の外国語を載せると本当に煩雑になって、ますますすごい厚さになってしまうということなので、給水ポイントですとか、避難所ですとか、アイコンの説明とかに英語を入れていき、QRコードで自分の国のところへ飛べるようなものを入れ込んでおけば、全部の外国語を入れる必要がなくなりますので、せめてそういうことはしていきたいと御要望申し上げました。

洪水ハザードマップ、土砂災害ハザードマップ、津波ハザードマップ、津波でいいますと、多摩川が決壊したときは大丈夫かな、この辺は大丈夫なのかもしれないけれども、実は鶴見川のほうが決壊するところらも全滅ということで、結構危ない地域でございますので、この辺も含めて自分のところがどこかって地図で探しますので、そこが真っ赤っかになっているとやっぱり心配になってくるから、どうしたらいいかなということで、一応危機感を持っていただきたいということで、液状化マップもできたら川崎市全体ではなく、川崎区のほうが真っ赤っかで、中原区も実は真っ赤っかなんだ、特に自分のところがどのぐらい真っ赤っかなのかを見ていただきたいということで、中原区をアップにした液状化マップにぜひ取りかえてくださいということもお願いしたりしております。

どのぐらいの規模の災害が起きたときに、この地域はどのぐらい木造が多くて、何時間ぐらい燃えてしまうとか、何棟ぐらい壊れてしまうとか、そういうことも結構細かく川崎市のホームページには出ていますので、入れられる限りは、枚数の制限がありますので、どこまで入るかはわからないんですけども、揺れやすさマップも含めて入れていただきたいということをお願いしました。

そのほかで、特に今回の区民会議ではユニバーサルなまちづくりの視点で、体に御不自由がある方と一緒に生き延びるためにはどうしたらいいかというのを、ぜひ区民会議でやりたいということもありまして、防災マップの中にはもう余地はないんですけども、これが行政と業者さんとの一緒に作業になって、広告枠をとらなければこれだけのものはでき上がらないということもありますので、広告のあきが出てきているところをコラムとしてなるべく使いたい。そのコラムの中に、阪神・淡路のときとか東日本大震災のときに、特に長い間、避難所運営をされたところで、例えば耳の不自由な方はこういうことが困ったから、こうしたほうがいいのか、目の不自由な方だったり、車椅子の方は避難所でどの辺にいたらいいとか、どんなものがあったら大丈夫とか、それぞれの各地域で詳しい情報がホームページにも結構出ていることに気がつきまして、その中で参考になりそうなものを今からできるだけリストアップして行って、どのぐらいのコラムにあきがあるか、わからないんですけども、優先順位をつけて、大事なところをなるべく入れてい

きたいなと思っています。そのようなマップは今までなかったかと思いますが、ぜひ中原区が先鞭を切ってやれば区民会議としてはいいかなと思って、そこはちょっと頑張らせてやっていただきたいと思っています。また、先ほど言った多言語版のQRコードでホームページ上に持っていく、中原の防災のサイト、川崎市のハザードのサイトなんかにも飛ぶようなQRコードも入れられたらいいなと思っています。

あと、今まで区民会議の中でもお話が出ていた「無事です」カードをどこまで書くか。何とか中学校とか出てしまうと、みんなそこに行っているから、じゃ、ここは留守だから泥棒に入ってもいいのかなという心配はあると思いますので、なるべく自由度の高いような書き込みができるような感じにして、とにかく元気ですとか、家族であれば誰が書いたというのは字でわかるでしょうから、そのようなことで後ろの背表紙のところを切り取れば、それを玄関に刺しておくなり、貼っておくなり、できるのではないかということで、それはやりたいということをお願いしております。

調べていくと、体のどこか不自由な方はSOSカードというのがあるといいということがほかの行政さんで結構出てきましたので、例えば自分はどのような障害を持っているから、どういう薬が必要だとか、どういうことをしてほしいとか、どういうサポートが要るということをあらかじめ書いておくと、いざというときにそれが役に立って、その人の命を救うとか助けることができるということで、SOSカードの余地はちょっとないかもしれないんですけども、できたらそんなことも入れたいと思っています。そういうコラム、どこに何が書いてあるかがわかるように、どこかにインデックスをつけて、何ページのどこにこういう情報があるということをつかえるようにしたいと思っています。

それと、例えば商店街さんでも防災のためにこのような取り組みをしていますとか、区民会議でお集まりの各団体様でも取り組まれていることがあると思うので、そういうことも御紹介できたら中原区区民会議らしいマップになるのではないかなと思って、どこまで入るかはわからないんですけども、なるべく入れていきたいなということでお話をしております。

いろいろな方によく読んでいただけるように、興味津々になる保存版ができたらいいということで、これから先、多分3月末ぐらいの出来上がり予定というふうにお聞きしていますので、原稿としては12月ぐらいでも間に合うのかなと思いますので、これから体の不自由な方たちですとか、障害をお持ちの方、また、外国の方、情報を届けにくい方にもどうしたらいいか、こういうものは最低入れておきたいなというものがあったら一生懸命入れていきたいと思えますし、皆様の御意見も聞きながら進めていければと思っています。

成田委員長 以上、3つの部会の報告をいただきました。本当に皆様方、それぞれボリュームがあり、その中から課題に必要なポイントに絞り込んで、委員の皆様方と協議していただき、短い時間の中で実践に結びつけていただく活動は素晴らしいと思います。特に今

回は防災という点で、無関心層からスキルアップまで、また、ユニバーサルな視点を加えて、包括的に防災というものを考えていこうということで、今回の3つの部会が同時進行している、6月の区民会議からここまで動かれたという皆様のパワーは本当に素晴らしいと、まず委員長からありがとうございますということですが、引き続きまして、ただいまの報告を受けまして、皆様方からの御意見、御質問などをお願いしたいと思います。特に先日、9月3日に実施されました中原区総合防災訓練を見学された方々の率直な御意見。ここにも幾つか記載されておりますが、網羅し切れない部分で発言したい方もいらっしゃると思います。また、間近に控えましたサッカードリーム教室につきましても、御意見等ありましたら、ここでぜひお願いしたいと思います。まず、御意見のある方、いらっしゃいますでしょうか。

挙手がないようでしたら、じゃ、こちらから指名させていただきたいと思います。

それでは、ちょうど真正面、対角線上になりますが、鈴木晴美委員からお願いいたします。

鈴木（晴）委員 先日の大戸小学校の防災訓練に参加させていただきました。皆さんで最初に回らせていただいた後に、自由に校庭の各ブースを回らせていただいたんですが、私はちょうど仮設のトイレの設置が行ったときにたまたま始まるころだったので、そちらを見させていただいたんです。大体7分くらいで1つのトイレができ上がったんですね。一応そこで組み立てていた町内会の方に、これって、毎年どのくらい出して練習されるんですかということ伺ったら、1人の方がエキスパートというか、よく知っていらっしゃる方で、あとの周りの方はきょう初めてやった人もいるという話だったんですね。5人くらいの方ではばばっと組み立てて、約6分から7分という感じだったんです。その初めての方も朝からやって3回目くらいなので、なれてきて、私たちもできるようになったんですというお話を伺って、これって、やっぱりそういう知っている方がいらっしゃればいいけれども、例えば置きっ放しになっていて、出していないところももしかしたらあるのかなど。そういうところの方もたまにはというか、最低年1回、2回、3回くらい組み立ててみようということをしていかないと、いざというときに大変なのかなと思いました。

そういう体験を子どもたちというか、私も中学生の息子がいるので、そういう子たちにも体験する場を持たせてあげたいなと思っています。先日、中原区のPTA協議会で、川崎市Pからアンケートの調査をしてくれという連絡があったんですけども、中学校だけなんです、中学生に対してそういう仮設トイレの組み立てであるとか、そういうことをやっていらっしゃる学校はありますかというふうに伺ったら、中学生2年生か、3年生のお子さんに毎年やっているという学校は4校だけだったんですね。あとの学校はやっていませんというお知らせをいただいたんです。なので、そういうことが各校にちょっとした時間に広がっていくといいなと思うんですけども、なかなか授業の関係でできないというお返事を学校によってはいただいてしまう、何かもったいないなという気はいたしました。

た。

フロンターレさんのほうは私も行ってみたいと思いますということくらいでしょうか、楽しみにしております。こういうところから興味を持っていただける方がふえるととてもいいなと思っているので、私もぜひ伺って、体験してみたいと思っています。ありがとうございます。

田邊委員 大戸小学校の防災訓練は法事のため欠席させていただいたので、何とも言えないんですが、近かったので、本当は参加しなければいけないと思いつつも、申しわけありませんでした。

私自身は今フロンターレ親子サッカードリーム教室の部会に入っておりまして、井上部会長の力でしょうか、どんどん話がまとまっていく。本当に若さんなのでしょうかと思いつつながら、これはこうだよ、それでもうすぐに決まってしまう。非常にリーダーシップもとっていただいて、楽しみなドリム教室になると思います。

マップなんですけど、たしか最初のころはなるべく簡単にして、見やすいようにしようよというお話があったように思うんですが、どんどん盛りだくさんにやられて、その辺の兼ね合いというのをぜひ、お年寄りから若い人、いろいろな分野が参考にできるようなものをつくっていただけたらありがたいなと思いますので、よろしく願いいたします。

関口委員 防災訓練なんですけれども、さっき内田委員も言っていましたけれども、私たちが行ったのは10時ですよ。だから、地域の人が少ないなという感じが正直ありました。やっぱり1時間以上たっているから、もう終わりでいいという感じでいなくなったのかなという印象をすごく持ちました。

もう1つ、中原区の総合防災訓練という割には、宣伝がもう少し、いまひとつではないのかなという気がしました。もっと全域に宣伝をして、たくさんの方が来られるような工夫をしたほうが、せっかくやるのであればもったいないなという気がしました。

もう1つ、校庭と体育館とありましたけれども、特に校庭の中で歯医者さんがいましたね。歯医者さんのブース、聞きたいんですけども、非常に聞きにくい雰囲気というか、聞いていいのかなみたいな感じがしたので、せっかく歯医者さんもこういうことをやっているんだよというのであれば、そんな聞きやすい、入りやすいような感じにしてみたらよかったのではないかなというのが1つ印象としてありました。

それと、ドリム教室のほうなんですけれども、私、そちらの部会に所属しているんですが、実は2回ともタイミング悪く、私がだめな日に当たったので、申しわけありませんが、1回も出ていないというような状況です。申しわけありません。

成田委員長 部会のほうは私も防災訓練部会に所属しておりますが、同じ事情で出席できず、申しわけありません。特に総合防災訓練についての広報に関しましては、事務局にぜひ広報のアイデアをもう少し膨らませていただきたいというのが運営部会のほうからも委員の意見として出ておりますので、ぜひその点を御配慮いただければと思っております。

中森委員 まず、一番最初に防災訓練について、一緒に参加させていただき、とても参考になりました。ただ、残念ながら、外国籍が避難するという想定はしていなかったように私は……。それは次回入れたほうが良いとは思いました。中原区は川崎市では2番目に外国籍の人口が多いことになっていて、どんどんふえているということで、どこかの避難所にはそういう外国籍が見えるので、別に多言語で何か用意するだけではなく、「やさしい日本語」でも受け付けとか、説明とかができる設定をすると、どなたでもそれに近づけたり、いろいろ質問もできるようになるのではないかなと思いました。

今回の総合訓練は、避難所といっても、私は避難所っぽく感じなかったんですね。実際災害が起きたときに、このように設置しますみたいな感じで、体育館も受け入れみたいな感じとするよりも、実際起きたときの環境に近いものをやると訓練になるかなとは思いました。

私が参加している親子サッカードリーム教室では、ブースの中では多言語コミュニケーションを担当することになって、実際ここに書かれているより、ちょっとまた違うやり方をすることになりました。申しわけないです。災害が起きたときに私たちは外国人にどのように接したらいいかというふうに考えていたんですけども、実際はそうではなく、外国人が避難所に来る、心細いので、まず、子どもでも、大人でも、その方に声をかけられる機会を与えるのが今回はいいのではないかなと思ひ、私たちはこのブースをやることにしました。ちょっと変わってしまって、ごめんなさい。

成田委員長 外国籍の方の視点を取り入れたものが欲しかったというのはよくわかります。

また、仮設トイレに関しまして、実際に参加されている一般の地域の方々のお話を伺う機会があったんですけども、仮設トイレの設置まではいいんですが、実際にそれを利用する場合に特に女性ですとか、夜間の使用時ですとか、女性ならではの安全とか、警備面ですとか、そういったソフトウェアの点をどういう形で盛り込んでいただけたらというお話もありましたので、やっぱりいろいろな視点から考えていくということも必要だなという印象です。

森委員 私は防災訓練に参加してきたんですけども、区でやる総合防災なので大変勉強になりました。今井中の小さな訓練とは違ひまして、それこそお医者さんから、緊急の電話とか、そういうのを設置される場所を見学できましたし、煙体験というのをしてきたんですけども、本当に中は何も見えませんで、壁伝いに行ってくださいと言われてたんですけども、その壁伝いも苦しいというか、別に危害はないものが入っていますと言われても中は大変苦しかったです。あとは三角巾のところのグッズでやって、体験をしてきました。あと、防災グッズのところなんですけれども、今まで自分のところでしてきた防災グッズではなくて、いろいろ新しいものが出てきて、本当に勉強になりました。だから、これを町会にどう生かしていったらいいのかなというのは考えさせられまして、今度

2月にあります防災訓練もぜひ参加したいと思っております。

柳沢委員 ちょっと一、二質問したいんですけども、フロンターレ親子サッカードリム教室の募集要項はどのようになっているんですか。

井上副委員長 中原区内の小学生全生徒に配布させていただいたものと、町内会の掲示板に掲載させていただきました。開催時期は7月だったり、9月だったり、毎年ずれるんですけども、ことしはちょうど募集期間が夏休みとなってしまったので、まずポスターを掲出して、新学期のタイミングでチラシを配布させていただきました。500名のところ、759組の応募があって、抽せんで500組を選ばせていただいたという形になっています。

柳沢委員 ことしのフロンターレは優勝はどうかと思うんですけども、調子がいいので、サッカー教室は毎年恒例のようにやっていただけるとありがたいなと思っております。

今言った防災訓練は私も見たんですけども、関口委員が言うように住民の関心が少なかったですね。住民の関心は災害直後ですとかなりあるんですけども、ああいう震災でも四、五年たつと大分一般の住民の関心も薄れてくるんですが、薄れたときに危ないとよく言うので、ああいう設備なんかはすごく進歩しているなと思いました。消火器なんかを見ていても、消火器に圧力計がついたのも初めて見ましたし、消火器の耐用年数はどのくらいかななんて思いましたら、圧で見ただけであれば簡単なんですよと言ったんですけども、通常入れっ放しで五、六年、10年というのがあれなんですけれども、圧を見れば使えるというのは一目瞭然にわかるので、こういう面で随分進歩したなど。ああいう簡易トイレでも何でもそうなんですけれども、そう思いました。

また、備蓄倉庫なんですけれども、大戸小学校の備蓄はすごいですね。あれだけの備蓄倉庫をほかの区の全小学校でそろえているのかな。備蓄倉庫って、あるところとないところがありますね。だけれども、あそこのはすごいなと思いました。別にそれに頼るわけではないんですけども、やっぱり備えあれば憂いなしと思っておりますので、各地区にできるだけ……。あってからでは遅いので、ある前にそろえていただけるとありがたいなと思っております。

私も防災マップの部会に入っているんですけども、ちょっとマップとは違うんですけども、私、商店街連合会をやっている感じるのは、商店街の商店が最近ではテナントさんが多くなりまして、昼間の人口は多いんですけども、夜の人口ですね。テナントさんが終わった後、留守になるんですよ。そのときがすごく、正直言って深夜というか、朝にかけて人口がぐっと減るんですね。特に私のいるオズ通りなんかは、ブレーメン通りもそうなんですけれども、メイン通りがほとんどテナントさんになって、オーナーさんで住んでいる方ももちろんいるんですけども、お店から全部をテナントに貸してしまったりすると、夜は物騒な感じになってきてしまうんですね。それと、今言ったようにごみの問題だとか、いわゆる不審火だとか、これから寒くなるとそういうのがふえてきて、そう

いう面では商店街も、昔から比べますとオーナーの方が少なくなって、商店街の住人が少なくなったというのがすごく心配になってきたな。そういう面が多々あるので、我々商店街としても横のつながりを持って、火災、防犯ですね。今、一番注意しているんですけども、ほとんどの商店街で今は防犯カメラをつけております。それも日にちがたつとメンテナンスの面でいろいろな障害が出たりしてはいますが、防犯カメラの威力というのは、皆さん御存じのように証拠写真にもなりますし、警察のためにあるようなもので、商店街は直接防犯カメラは使っていませんけれども、我々も協力していますので、ぜひそういう面で防犯カメラのある商店街をマップに入れたいとか、AEDを備えているとか、そういう面も細かくしていただけたらありがたいなと思っております。

成田委員長 まちの変化と地域コミュニティという視点からのマップですとか防災、いろいろな点へ反映させていきたいという御意見、ありがとうございます。

山崎委員 防災訓練に参加させていただいて思ったのは、開設者側の視点での訓練で目的はよろしかったのかなということの確認と、住民が少ないということは、やっぱり住民向けではなかったという印象がすごくあった訓練だなと思って見ていたんですね。住民があそこへ行って何をするのかというのはとても見えづらくて、まずはどこへ行くんだろうとか、まず何をしたらいいんだろうとか、そういうところ、私自身がどうしたらいいのかわからない感じの避難所だなと思いました。

私が避難する小学校とか中学校は、こういう訓練をやっているのかなというのがとても気になりました。やっぱり日ごろからしていただくということはとても大事なこと——くださるなんて言うてはいけないんですけども、私はあるから来てくださいと言われたことがなかったので、やっているのか、やっていないのか、わからないというのは区民として無責任なのかもしれないなということは感じました。やっぱり体験しておくべきだなと思ったから、なおさらそういう印象です。

マップについてはすごく盛りだくさんになりそうな印象なので、おおよそ何ページぐらいのものを想定していらっしゃるのか、わかったら教えていただければと思っています。

萩原委員 ページ数につきましては、広告がどのぐらいとれるかとか、全体で幾らぐらいかかるかとかというのにかかっているようなので、私も大体ということはお聞きしたかったところですけども、ちょっとまだ発表にはなれないような感じです。でも、枚数的には私が想定したよりはかなり多そうなので、どこまでいくか、わからないんですけども、マップそのものが細かくなっていくというわけではなくて、そのページ数でこれだけ入るといいねというような話で進めています。随時業者さんと行政さんとのお話で最終的には決まっていきますけれども、そこに要望を投げかけて、どのぐらい実現するかということかと思えます。

マップをつくるだけではなくて、その後も大切だよなということは部会でお話が出ましたので、例えば全戸配布というような予定ではいるようですけども、中原区の手さん

の工場だったり、企業だったり、そういうところにもお配りして、一緒に共有化できたらいいねということもお話ししております。

梅原委員 行きがかり上、大変だったんですけれども、3つとも参加したんですよ。

まず、マップなんですけれども、先輩諸氏がつくられて、もう立派なものできているんですよ。びっくりしました。私は東京都のやつももらっているんですけれども、これとよく比較するんですが、例えば手引書なんかがありますけれども、その中に、災害が起こる前にこれだけのことをやらなければいけないという予防と、災害が起こったときにどうすればいいかということがごちゃごちゃになっているんですね。そうすると、ああいうものは普通のときはなかなか読まないんですね。心ある人は災害が起こったときはどうしようかと思って、読むんですけれども、普通は置いておいて、何か問題が起こったときに、さあ、どうしようかと一生懸命調べて見るというケースが多いんですね。そうすると、慌てて、急いでいるものですから、物が探せないというようなことがあるので、ああいう書類は、やっぱり見やすく、起こったときに見る、予防のときに見るというふうに分けるといいのではないかなという感じがありました。

訓練のあれですけれども、例えばボーイスカウト&ガールスカウト中央協議会は、過去にもそういう避難所の訓練とか、食料を料理して食べる、あるいは煙が出たときにどうするかといういろいろな訓練をやったんですけれども、それが実はもう5年ぐらい前ですか。それと比較すると、例えばアウトドアグッズを見てもしかり、すごく進歩しているんですね。これにびっくりしました。要はすごく便利なものがたくさんできたな、研究が進んでいるなという印象がありました。

先ほど備蓄の話も出ましたけれども、十分だという話があったんですが、私は、えっ、随分少ないなと思いました。ただ、考え方によっては、やっぱり備蓄というのはある程度自分でやるのが基準かなと。だから、避難所に行ったら何かもらえるのではないかなという考えをまず改めなければいけないなという感じがしました。そうすると、一般の方にそういう印象を持たせるためにはどうしたらいいかなというような広報が大事なのではないかな。要するに避難所に行っても、すぐ食べられるものはそんなにないよとか、その辺をきっちりやる必要があるのではないかなという感じはいたしました。

サッカーの話ですけれども、これは非常にいい経験だなと思います。集まった子どもたち、防災なんて全然考えないですから、その中にこういうものを盛り込んであるというのは非常にいい方法であるのではないかなと思います。BG・GS中原区連絡会はロープ結びという役割があるんですけれども、これもしっかりやりたいと思っています。

成田委員長 3つにわたって大変ですけれども、よろしく願いいたします。

○梶川委員 皆さんからいろいろな意見をお聞きしまして、本当に同じような気持ちでいっぱいです。そして、私は川崎フロンターレ親子サッカードリーム教室の部会を担当させていただいております。先ほどおっしゃったように、井上部会長さんがとてもてきぱき

とやってくさるので、自分がそこの担当をするのが楽しみであります。

先日の大戸小学校の防災訓練に参加しましたが、私たちが行ったのは10時だったので、近所の方はお帰りになったのか。後日、町内の方に聞いてみたら、開会式には出たけれども、ある程度見たら帰ってしまったみたいで、お会いしなかったんですね。ですから、もったいないような気がして、もう少し多くの町会、地域に流していただければよかったのではないかなと思います。あんなに立派な防災訓練はなかなかできないので、また2月にやるときにはぜひ多くの方に集まっていたきたいと思いました。

アルファ化米の試食をしたんですけれども、その辺にいる人が、3日間ぐらいは自分で備蓄しておかないといけないので、そういうところへの販売は大変でしょうけれども、ここで売っているとか、そんなパンフレットをいただいて、できればあの横で売っていただければ一番よかったんですけれども、そうもいかないかもしれないので、どこへ行くと買えるとかというのを教えていただければよかったと思いました。

成田委員長 以上、皆様方の感想も踏まえまして御意見をいただきましたが、最後に部会長の3人の方々に、それぞれ今の御意見、御感想につきましてまだ一言あるようでしたらお願いしたいと思います。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

成田委員長 それでは、時間の都合もありますので、発言はここまでとさせていただきます。

(2) 区民会議報告会について

成田委員長 続きまして、2つ目の課題に入りたいと思います。区民会議報告会についてということで、こちらにつきましても先日、9月20日に運営部会で検討されました内容につきまして、梶本副委員長より説明させていただきたいと思います。お願いいたします。

梶本副委員長 この間、運営部会で検討した内容について報告させていただきます。

この前、前回の区民会議のときにも区長さんから、区民会議について「(仮称)今後のコミュニティ施策の基本的考え方」検討方針等によって、現在のような形から今後変わるだろうというようなお話がありました。

そのことを踏まえまして、この間の運営部会の中では、1つの考え方として、今6期になっておりますが、第1期から第6期までの区民会議のまとめというような意味を踏まえて、1期から6期までの委員さんに招集通知といいますか、案内を差し上げて集まっています。1回目から今までどのような形で区民会議をやってきたとか、そのような話をして、総括的なものをまとめ、そのような形で委員同士の交流なども図りながら、今までの区民会議のまとめ的なものを行ったかどうか。いわゆる内部の報告会的な形、意見交換を主とした形でやったかどうかという考え。

もう1つの考えは、これまで報告会と区民会議の活動の周知という形で5月ごろですか。一般向けに今期の区民会議でこのようなことをやりましたというようなことを報告していたわけですが、そういった形でイベント型のものを実施するというような2つの意見が出ました。これについては運営部会ではどうするという決めることではなくて、そういったものがあつたということを経済の会議でお話しさせていただいて、皆さんの意見を伺って検討していただければということで、そのようなまとめとさせていただきます。成田委員長　こちら運営部会の議事録がまだでき上がっておりませんので、まだ資料がなくて大変申しわけありませんが、まず、参考資料1の第6期中原区区民会議スケジュール(案)がお手元にあるかと思っておりますので、そちらを参考にさせていただきたいと思っております。

実は区民会議の本会議自体は、今回と1月に開かれます第7回会議をもって一応終了ということになります。従来のスタイルですと、その後、区長報告を踏まえまして、最終的に市民報告会というのを毎年開かせていただきました。従来のスケジュールですと、大体市民報告会という形は5月あたりをめぐりにさせていただいて、一般に区民会議自体のPRを含めるということで、去年までですと中原市民館の大ホールを利用して、イベントの合間と兼ね合わせた報告会という形をとらせていただきました。

実は今回なんです、後ほどその他の項目で御説明があるかと思っておりますが、中原区区民会議自体は今回で一応集大成を向かえるということもありまして、従来どおり、第6期の活動報告として公に向けた報告会という形をとるか、あるいは、先ほども説明ありましたが、第1期から第6期までの総まとめという形で、今までの委員さん方にも参加していただいて、本当に内輪ということになります、報告書という形では残しますが、委員同士の交流という形にするか、どういうスタイルをとった方がいいかという2つの案が今出ているところですが、それにつきまして皆様方の率直な御意見をここでいただければと思っております。

まず、どなたか御意見がある方はいらっしゃいますでしょうか。

関口委員　第6期区民会議としては、やはりきちんとまとめたほうがいいと思っております。過去の5期までの人とやるというのは、それはまた別に考えた方がいいのではないかなという気がするんですけども。

成田委員長　第6期区民会議としての報告書というのは、また別につくりますが、それとは別にきちんとした形で報告会を設けるということで。

ちなみに、報告会という形をとるとすれば、それは外部向けにまで発展したほうがいいか、あるいは内輪だけの報告会でいいのか、その辺の希望も踏まえておっしゃっていただけるとありがたいと思っております。

関口委員　はじめとしては、ちゃんとやったほうがいいのではないですか。何となく報告会をやらなくて、じゃ、第6期はどうなったのと言われかねないので、時期が5月になるのか、4月になるか、それは別にして、やっぱりきちんとはじめとしてやったほうがいい

と私は思います。

成田委員長 従来型の報告会というスタイルをとるという御意見ですね。ありがとうございます。

では、今回3期目になられます梅原委員、いかがでしょうか。今までの報告会スタイル等を踏まえましてありましたら、お願いしたいと思います。

梅原委員 先ほど言われたとおり、やっぱり5期と6期はきっちりまとめていったほうが良いと思います。

内田委員 6期ということで参加していただいているので、ほかの方というよりは、やはりここで3つの部会に分かれてそれぞれのやっていること、行っていること、そして行ったことに対しての報告会というのは必要だと思います。ほかとの連携というのは、申しわけないけれども、長く携わってきた方のお話かなと思うんです。それでは倍の力がかかるということ。この第6期だけでもかなりの力を要している皆様方が集まっている中で、それ以上というのはいかがなものかなと感じるところ。やはり第6期の報告をしっかりとやらせてもらって、それで終了というのも1つの路線ではないか。そして、どうしても第1期から第6期ということであれば、同窓会的な感じでまた別の会議で設けていただいて、進めていただければいいのではないか。今回ここで委員長がおっしゃっていることに関しては、やはり6期の報告会が必要であろうと感じます。

成田委員長 スケジュール（案）に沿いますと、報告会という形は来年の3月ということで事務局では想定していますが、取組検討・実践部会のマップづくりが3月までかかるということで、実質的に活動が全て終了してからの報告会というのはちょっと難しいかと思いますが、それは除きましたにしても、報告会という第6期のけじめはきっちりつけたいというのが恐らく今までお伺いした方々の御意見だと受けとめております。

山崎委員 1期から6期までの総括となると、それぞれの期できちんとした報告会をなさっているわけですから、その6期が集まるとなると、今度は区民会議の総括という形になってくると思います。確かに私たち、区民会議にはどういう意義があって、どのようにするかというのは、やっていて、余りそういうお話し合いはしていないので、区民会議がどういうものかという総括をするということはあるかもしれませんが、その総括をして、どう生きてくるのかと言われると、どうなのかな、総括する必要があるかどうかというところにかかってくるかなと思っています。

市民向けの報告会はぜひ6期はきちんとやったほうが良いと思います。6期は6期できちんとした報告をして、区民会議を閉めたほうが良いと思っています。

柳沢委員 内田委員と同じです。

萩原委員 マップに関して言えば、発行自体は3月の末であっても、3月中の報告会であれば、少なくとも校正段階は発表ができるのではないかなと思いますので、方向性としてはその中にマップも入れることはできるかなと思います。また、今の皆様の御意見で本当

にそれはもっともかもしれません。方向はどの程度やるか、今まで人集めみたいなのは何を使うかみたいなのので頭を悩ませていたこともありますので、どういう形にするかはこれからの検討にしても、6期集まってというのは、総括という意味よりは本当に同窓会的に、自分はこのような意気込みでやって、こういうことがよかったとか、この期はこんなことができたのが自分たちとしては誇りだったみたいなことが出てきて、それが全体としてこれから先のコミュニティを含めたこれからの仕組み、区民会議の別の形で何か仕組みづくりを考えているみたいなので、そこへの発展的な意見を出せる貴重な場になるのではないかなと思うので、同窓会は同窓会でお茶会みたいな感じでも参加できる方でというのでいいのではないかなと思います。それは意義があると思うので、ぜひやってほしいなと思いました。

成田委員長 そのほかに御意見ある方はいらっしゃいますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

成田委員長 今までの皆さん方から出た意見を集約させていただきますと、まず、第6期区民会議の報告会というものをきちんと集大成として行うという意見で、ほとんどの皆さん一致かと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

成田委員長 それでは、今期の報告会という視点でこれを進めていくということで、方向性としては実施に向けて正副委員長でまた内容を煮詰めていきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

成田委員長 ありがとうございます。では、そのように進めさせていただきます。時間の関係上、これで意見のほうは取りまとめさせていただきましたので、御了承ください。

それでは、本題につきましては以上です。

4 その他

成田委員長 続きます、4番、その他に移りたいと思います。

まず、委員の皆様方から何かありますでしょうか。

関口委員 きょういただいた議事録が第6期第5回中原区区民会議（案）になっていますけれども、まだ案なんですか。その確認だけです。

事務局 すみません。先ほどもお話しありましたが、確認の方を2名、前回は選出いただいて、確認は済んでいるんですけれども、判をまだ押していないという状態で（案）をつけさせていただいている状態なので、基本的にもう（案）なしで結構ですので、よろしくお願いたします。失礼いたしました。

成田委員長 ほかにいかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

成田委員長 それでは、事務局からありましたらお願いいたします。

事務局 それでは、事務局からその他ということで、まず私から2点ほどございます。

今後のスケジュールについてでございますが、先ほども成田委員長が触れられましたが、参考資料1をお開きください。こちらにスケジュール（案）ということで、区民会議、運営部会、あとは各種部会ということでスケジュールを記載しております。今後の予定で、引き続き3つの取組検討・実践部会を行いまして、予定では運営部会にまた報告。それで、年度のスケジュールでいくと、また1月の中旬ごろに区民会議を予定しております。また、御案内につきましては、日程調整を各委員と行いながら日にちを決めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

部会の中でお話ございました親子サッカードリーム教室でございますが、10月15日ということで、そろそろ日にちが迫っているところでございます。今、各部会でいろいろ準備を進めているわけでございますが、当日部会の方以外でも総合防災訓練と同じように御見学に来ていただければと思います。こちらにつきましてはまた後日、各委員には御案内をさせていただきたいと思っております。お話がありましたとおり、サッカー教室自体は事前応募のため、当選された方とスタッフですとか関係者のみの入場となります。その関係で、入場方法について若干周知しなければいけないことがございますので、その部分を入れながら御案内を出させていただきたいと思っております。こちらは本日の区民会議の後に親子サッカードリーム教室の部会の方々で集まりまして、最終的な打ち合わせということでちょっと時間をとらせていただければなと思っております。

以上2点についてなんですが、何か御質問等はございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

事務局 もしなければ、私からは以上でございますが、続きまして、市民文化局コミュニティ推進部から、資料にございます「(仮称)今後のコミュニティ施策の基本的考え方」検討方針について説明させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

事務局 皆さん、初めまして。市民文化局協働・連携推進課の藤井と申します。よろしく申し上げます。本日は貴重なお時間をいただきまして、本当にありがとうございます。

座って資料の説明をさせていただきます。「(仮称)今後のコミュニティ施策の基本的考え方」検討方針でございますが、こちらは8月19日に川崎市議会、私どもが所属しております文教委員会で説明した資料をそのまま、同じものとなっております。

まず、左上の見出しになります。ことし3月に川崎市共に支え合う地域づくり検討委員会から、今後の「参加と協働による地域課題の新たなしくみ」について検討が求められるとの提言がありました。この資料は「新たなしくみ」の構築に向けて、具体的な検討項目ですとか、あるいは検討の進め方などを検討方針としてまとめたものになります。

まず、1.検討の背景といたしまして、(1)これまでの取組経緯でございます。中央にございます図表の中でも、真ん中に二重囲みで区民会議あるいはまちづくり推進組織とござ

いますが、こちらはこれまでの参加ですとか協働に関する主な取り組みを時系列に従って整理したのになります。この主な取り組みの概要といたしましては、その下の囲みにありますけれども、区における様々な市民参加や協働に関する取組等を初め、4つに整理しているところがございます。この下の今申し上げました地域づくり検討委員会報告書という囲みのところにありますけれども、区民会議の目的である「参加と協働による地域課題解決」については、必ずしも既存の枠組みを前提としない「新たなしくみ」の検討が求められているということがございます。

次に、右上になります。(2)現状と課題認識についてでございます。こちらは町内会・自治会を取り巻く環境変化、あるいは互助の土壌作りの必要性など地域コミュニティや市民自治に関する現状や課題認識を1つ1つ整理したものでございます。このうち、下から2番目の囲みになりますが、区における参加と協働の取組のあり方検討がでございます。この中では、区民会議やまちづくり推進組織の課題として、身近な狭い範囲における課題への対応ですとか、あるいは実践活動へのつなぎ方などについて委員会の報告書から抜粋しております。さらに、太字のアンダーラインの箇所には区における中間支援機能とありますが、こちらは具体的には区民の皆様のさまざまな活動に対して必要な支援を行うということを中間支援と表記しております。そうした機能の整理についての検討が必要であると考えております。

さらに、その下になりますが、行政の対応の遅れと市民主導の新たなソーシャル・ムーブメントでございます。ここでは区民会議やまちづくり推進組織は制度導入から10年以上経過していることから、これまでの成果や課題などについて検討が求められているところでございます。

その下、2.検討の方向性になります。ここではまず、(1)検討の視点といたしまして、検討を進めるに当たってのポイントを2点掲げてございます。

まず、1点目は多元社会への適応になります。こちらは都市化の進行など、さまざまな背景により個人の価値観が多様化している状況がでございます。こうした多様な価値観を有する都市型のコミュニティの求められる施策のあり方について検討してまいります。

次に、その下になりますが、2点目といたしまして、誰が公を担うのがございます。これからの公は行政だけが担うものではなく、市民や企業などさまざまな方との協力により、社会全体で新しい価値をつくり上げていくといった視点を持ちながら、検討を進めてまいりたいと考えております。さらに、その下になりますが、若者や現役世代などを中心とした社会的な活動に対する関心の高まりですとか、SNSなどを活用した自由なつながりの中で新しい活動が広がりを見せておりますので、そうしたところも捉えながら検討を進めたいと考えております。

その下、(2)検討する際の基本姿勢についてでございます。こちらは検討するに当たっての行政の心構えというものを記しております。

まず、1点目といたしまして、現場主義に立った総括がございます。これまでの取り組みについて検証や振り返りを進めるには、行政側からの一方的な視点にならないことが重要であると考えております。ですので、これまでの取り組みについて、御協力いただいた関係者の皆様との意見交換などを通じて検討を進めてまいりたいと考えております。

後ろの面をおめくりいただきまして、左上ですが、未来志向の熟議になります。こちらは、これまでの取り組みの総括の上に立ちながらも、これからの理想とする地域社会の姿を思い描きながら、市民の方と丁寧な話し合いを通じて検討を深めたいと考えております。

その下の具体的に現時点で想定される検討項目でございます。

一番上の囲みにありますが、今回、区民会議以外にも町内会・自治会を初め、さまざまな論点が多岐にわたっておりますので、検討項目といたしましては、地域レベル、あるいは区域レベル、市域レベル、個別項目に整理して検討を進めたいと考えております。このうち、上から3つ目の区域レベルの取組がございます。先ほど申し上げました地域づくり検討委員会報告書では、区民の活動を支援する区域レベルでの中間支援機能の整備について、全市的な視点からの検討が求められております。そうした全市的な区域レベルの中間支援のあり方に加えて、その下の点にございますとおり、それぞれ区の地域資源ですとか、特徴ですとかに違いがございますので、そうした区ごとの違いを前提とした取り組みについて検討を進めたいと考えております。

右上の表は、今申し上げました検討の方向性について、全体を表形式という形で整理したものになります。

その下、4. 検討のスケジュール概要になります。

(1) 検討の進め方といたしまして、市民の方と行政の相互理解をまず深めることが重要であると考えております。このため、そうした話し合いを進めるためにもじっくり、2カ年かけて検討を進めてまいりたいと考えております。今年度につきましては、これまでのそれぞれの取り組みについて、さまざまな関係者の方との対話による振り返りや検証を進めたいと考えております。さらに、来年度につきましては、今年度進めるこれまでの検証や総括をもとにしながら、これからのコミュニティ施策のあり方について市民参加の取り組みを進めながら検討してまいりたいと考えております。

その下の点線の囲みになりますが、区民会議については、1度立ちどまってこれまでの成果や課題を検証した上で、参加と協働の「新しいしくみ」の検討をすることが望ましいと考え、第6期の終了をもって、一旦、休止したいと考えております。

その下、(2) 検討スケジュールでございます。今年度につきましては、中段にございます市民参加の欄がありますが、今申し上げましたこれまでの施策に関して御協力いただいた市民の方から丁寧な意見聴取を行い、上段の庁内検討欄にございますこれまでの取り組みについて検証を進めて、3月に中間取りまとめを行う予定でございます。来年度につき

ましては学識経験者などから構成される附属機関ですとか、あるいは市民検討会議を設置したいと考えております。11月ごろには素案という形でお示しし、市民集会ですとかパブリックコメントを通じて、最終的には3月末の策定を予定しています。

本日はまず、この検討に着手したという御報告になりまして、また今後、改めて、例えば例年2月に区民会議交流会というのがありますけれども、例えばそうした場を活用しながら、これまでの取り組みの成果ですとか課題について意見交換をという場を予定したり、あるいはそれ1回だけというわけにもいかないと思っております。その前に、例えばアンケートなどを活用しながら、これまでのなし得た成果ですとか課題とかについて広く意見をいただきながら、そうした意見交換の場においても活用して、検討を深めていきたいと思っております。また改めて、そうした振り返りなどについて声をお寄せいただくような協力をお願いしたいと考えておりますので、今後ともまた、ぜひよろしくお願ひしたいと考えております。

説明は以上です。

成田委員長 いささか駆け足で説明いただきましたが、ただいまの説明を受けまして、まず、委員の皆様方から何か御意見、疑問な点があれば挙手をお願いしたいと思います。貴重な機会ですので、ぜひどなたかいらっしゃいますでしょうか。

内田委員 1つお教え願えればと思うところがあるんですが、先ほどの4.検討のスケジュール概要、(1)検討の進め方の3つ目の枠の「2018（平成30）年度以降の区民会議については、地域づくり検討委員会報告書」、地域づくり検討委員会はどのような方々が運営されているのか、お教え願えればと思っております。

事務局 市民文化局区政推進課の山崎と申します。私からお答えいたします。

説明の冒頭でありましたとおり、地域づくり検討委員会、正式名称は川崎市共に支え合う地域づくり検討委員会ということで、資料表面の左上に載せさせていただいております。メンバーはこの資料には書いてございませんけれども、メンバーとしては、学識経験者の方、大学の教授の方3名と公募市民の方2名、計5名の方で検討いただいたものでございます。

ちなみに、公募委員の方2名は、偶然かもしれませんが、区民会議委員をそれぞれ経験された方が検討委員になっていただいたところでございます。

内田委員 そうすると、報告書というのは、今現在出されているのが報告書なんですか。

事務局 こちらの資料では報告書の中のほんの一部だけ載せているような形になっておりまして、資料の表面の左の一番下のところでございます。地域づくり検討委員会報告書（2017（平成29）年3月）による提言と書いてございまして、提言の中のポイントだけ載せさせていただいておりますが、区民会議の目的である「参加と協働による地域課題解決」については、必ずしも既存の枠組みを前提としない「新たなしくみ」の検討が必要だということ。2点目が、まちづくり推進組織についても区における中間支援機能の整備と

あわせたあり方の検討が必要ということ。3点目が、市民自治のあり方全体としての視点を持ちながら、既存の市民活動支援施策やコミュニティ施策等との役割分担や連携のあり方整理が必要、この3つの提言をいただいたところでございます。

内田委員 それに基づいて「新たなしくみ」を検討しているので、今回で終了だというふうに捉えればいいわけですね。

事務局 区民会議は終了という表現がいいのかどうかというのはございますけれども、この検討を進めていく上で、第6期をもって一旦休止させていただき、検討のために休止をさせていただくということでございます。

内田委員 もう1点、ちょっと気になった行があるんですが、表面の(2)現状と課題認識の中の一番上の町内会・自治会を取り巻く環境変化の一番下の行なんですが、「行政依頼事務は従前のままとまっていることが、町内会・自治会への過大な負荷となっており、このことへの抜本的な対応が課題」ということで、これは課題であって、対応するという意味ではないんですか。

事務局 お答えいたします。御指摘のとおり、こちらにつきましては、まず現状と課題認識ということで記述しているところでございます。御指摘のとおり、こちらについての具体的な対応ということで申し上げますと、恐れ入ります、後ろの面、裏の面に行ってください、左側でございます3.現時点で想定される検討項目の一番下の囲みに個別の検討項目がございます。ここの中の1つ目の点になりますが、アンダーラインのところをちょっと読み上げます。「真に必要な行政依頼事務を精査するなど、これまで進めてきた行政都合の協働スタイルの見直しを進める」ということで、こちらについても行政のほうで、これからそういう行政依頼事務の見直し等を検討してまいりたいと考えております。

内田委員 私も町内会に携わっている者の1人として、大変気になっているところだったので質問させていただきました。今後とも見直しをぜひ進めていただきつつ、町内会の負担の軽減をよろしく御検討願いたいと思います。ありがとうございます。

梅原委員 これを見ましたら、今、我々がやっていることなんですよ。それをやめて、別のことをやろうという話なんです。その辺、大きく違うところはどこでしょうか、お教え願いたいと思います。

事務局 恐れ入ります。不勉強で申しわけないんですが、同じところというところをもう少しお教えいただけますでしょうか。

梅原委員 現時点で想定される検討項目とか、1面の検討の方向性は、今やっていることなんですよ。だから、今やっていること以外にどういうことを検討されるんでしょうかという質問です。

事務局 こちらの裏面にございます現時点で想定される検討項目ということで幾つか列挙してございますが、1つには、それぞれのエリアといいますか、取り組みのレベル感とか、個別の内容とか、幾つかございますが、それについていま1度、全体として今後のあ

り方について検討していきたいと思っております。これまで個別の取り組みが幾つかございましたけれども、いま1度そうしたものを全体の中で捉えて検討してまいりたいと考えております。お答えになっているか、わかりませんが、以上でございます。

梅原委員 要するに1つ1つテーマが出されて、それに対応してどのようにしようかということをお皆さんで検討して、このようにしたらいいのではないかという意見が出されているわけですね。それを1つ1つ解決していくところが区民会議のやり方かなと考えているんですけれども、例えば区民会議のメンバーを考えたとき、先ほど話があったように学識経験者とか、そういう人がいいのだったら、一般の人を集めていろいろ検討することは問題かなというふうな考えをお持ちなのではないかと思えます。

成田委員長 関口委員、まちづくり推進委員会として何か御意見があればぜひ伺いたいんですけれども。

関口委員 いや、お役所的と言うと失礼ですけども、正直、我々が言っても無駄ではないかという気が私はするので、意見は差し控えます。

成田委員長 非常に率直な意見だと思っております。

柳沢委員 こちらのほうですか。余り理解できないような感じなんですけれども、これは今までずっとやってきたことですね。そうではないんですか。

成田委員長 私もそのように思います。

柳沢委員 よくわからないな。

成田委員長 率直に言って、多分きょう御参会されている委員が全員、いきなり寝耳に水に近い状態だと思うんですよ。こちらの報告書につきまして3月にまとめられたということですけども、実際に私たちがこれを見たいという場合、どうしたらいいのか、あるいはそれができ上がった時点で区民会議等に配付されなかったのかということが1つ、私としては感じますが、こちらの閲覧につきましてはどこで入手すればよろしいでしょうか。

事務局 お答えいたします。まず、共に支え合う地域づくり検討委員会の報告書につきましては、もちろん区役所にもございますし、川崎市のホームページからごらんいただくことも可能でございます。こちらの報告書、委員長から、なぜすぐに報告がなかったのかという御指摘ございましたけれども、こちらはあくまで附属機関からの報告書を行政宛てにいただいたという形になりますので、行政としては当然その報告書をそのままというわけにはまいりませんので、その報告書を受けて、行政としてどう対応するかという大きな方向性を5月の段階で一旦お示しして、8月の文教委員会で当面の検討方針を御説明して、ようやく行政としてはこう対応していきたいというところをまとめたのがこのタイミングということでございます。

萩原委員 何か今のお話はとても変だと思えますよ。だって、地域づくり検討委員会をそもそも立ち上げたのは誰なんですか。行政ではないですか。どの先生にお願いしようとか、どういう専門家をお呼びしようとか。また、公募といいながら、たまたま区民会議の

委員の方だった、それはどこの地区のどなたなんですか。それは本当の公募だったんですか。そのことは今現在やっている区民会議の人たちに何の情報もなかったですよ、途中で。だから、寝耳に水だと言っているんですよ。今まで10年間、続いていたものを取りあえずやめてみよう、もう1回組み直して、今の時代にふさわしいものをつくり直したいという気持ちはもちろんわかりますよ。でも、ここに書いてあることはすごい抽象的なことが多くて、町内会・自治会の負担を減らすというのはまた別問題で、とても大変なことだと思うんです。それと今の区民会議が今までやってこられたこととはまた別の次元で、それこそ企業の集まりだったり、ほかの全然違うNPOの方が入っていたり、適宜にわたって集まっているので価値があったと思うんです。それは町会だけの話ではないと思うんですよ。だから、町会の負担を減らすことと区民会議の組み直しをごっちゃにされることは、ちょっと私は不思議に思います。もっともなことと、立派にちゃんとやってきた区民会議。区によってももちろん温度差があると思うんですけれども、少なくとも中原は結構実績を上げてきたと思うので、それを一緒にされて、全部もう1回組み直し。

そこでまた、SNSの時代だからという、しなやかなソーシャル・ムーブメントとかと言われると、じゃ、ここでいろいろな団体とかを代表して来ている方が顔を合わせて、地域の問題をじかに知っている人たちが何ができるかとやられていたことと、SNSにアップして、それをわかったよねと言ってみんなに広げていること。数はふえるかもしれないんですけれども、全然できることがまた違ってくると思うんですよ。こういう顔の見えるアナログの力の集まりにSNSも利用しながら、輪を広げていくという方向はあるべきだと思いますけれども、もっともらしいことが入りながら、すごい抽象的で、結局は最初に行政の方が、とりあえずは10年間続いていた前のやり方とめて、もう1回見直ししたいねというだけのことだと思うんです。今のお話だと、この会から答申が来たから、それに対して行政が対応しなければいけないというのは本末転倒だと私は思いました。

成田委員長 時間の関係上、非常に限られておりますが、副委員長のお二方は何かありますか。

井上副委員長 正直、私も聞いていて、本当に単純に、このお話がこういうところから来たんだけど、はっきり言えばよくわからないというのがもう率直な意見です。

ただ、区民会議と「(仮称)今後のコミュニティ施策の基本的考え方」検討方針というところで合致したのだろうか。要は仮定、憶測で全部ひもといていかなければいけないという部分があるし、納得していない方もすごくこの中では多いということは、必ずしもここに出ているものが進めないといけないものかということから考えていけないのかな。というのは、これをとりあえず受けて感じているだけのものであって、自分から何か自発的に考えたものはまだないんですけれども、受けた段階では今ちょっとそういう印象を受けています。

橋本副員長 私は結構です。

成田委員長 それでは、時間の都合もありますので、恐れ入りますが、きょう出ました意見、要望、御質問等につきましては、またぜひ反映させていただくべく、次回等でまた、この継続説明等をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

事務局 今いただきましたこと、また、そういうことがないようにこれから取り組みを進めてまいりたいと思います。また改めて説明とかの機会をいただければさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

成田委員長 それでは、本日の議事は全て終了いたしましたので、ここで区民会議参与の方に一言いただきたいと思います。本日の議論をお聞きしまして、お気づきの点などがありましたら御助言などをいただければと思いますので、松原参与、ぜひよろしくお願いいたします。

松原参与 地域の状況といたしますか、皆さんそれぞれ選挙モードかなと思うような状況でありますけれども、私はまだ時間にちょっと余裕があります。御指名をいただきましてありがとうございます。

親子サッカードリーム教室につきましては、たしか小野寺区長のときから始まったわけでありまして、そのときに区で自由に使える予算というものが市からいただけるようになりまして、それを有効に使おうということで親子サッカードリーム教室が始まったということで、これは年々進化してきて、今回は防災関係等々いろいろなブースをつくってということでありまして、引き続きまして、こういった新たな取り組みがどんどん進化をしていけばいいのかなと思います。

区の防災訓練でありますけれども、これまで年に1回、各区持ち回りで大きな大会といたしますか、防災訓練をやっていたのでありますが、唐突に年の初めの市長の挨拶の中で、今年からというか、その大きな防災訓練のほかに新たに各区で2回ぐらいやっていただきたいねというようなことがあります。これは今、大変各地区で集中豪雨ですとか、ゲリラ豪雨ですとか、地震だとかが発生しておりますから、そういったものに対応するために年に1回の区の持ち回りではなくて、区の中でしっかりと、少なからず年に2回はやっていただきたいという防災への取り組みをさらに啓発していただきたいということで、これはどんどん進めていただければいいと思います。

防災マップも非常に課題があると思いますけれども、誰にでもわかりやすいマップをお作りいただくわけではありますが、中には、聴覚障害、視覚障害、いろいろな方がおります。子どもにも読めるのか、あるいはまた、中学生、高校生、お年寄りまでも読めるのかという全方位で読めるマップになるのか、障害者の方にも対応できるのかということについても、しっかりとまた、対応していただかなければいけないのかなと思います。

それと、この区民会議のあり方ということでありまして、8月の文教委員会での報告がございましたということでもありますけれども、これを聞いたときに私も非常に驚きました。唐突に出てきた話でありまして、私の立場上においてもいまだに報告がなされていな

いということもあります。議会の委員会の中ではそういった議論があったということであろうかと思えます。

これは基本的に平成17年にできた自治基本条例に基づいて、翌年にできた区民会議条例に基づいて実施をされているわけでありますが、平成17年にできた自治基本条例をつくるときには、議会としても大変な問題がありましたよといえますか、これも唐突に出てまいりました。全国でこういう条例をつくるのが非常にはやっていたということでありまして、ある大学のある先生がこういうことが得意でありまして、その先生のある程度の大まかな内容をもとにしてできたのが自治基本条例でありまして、その中で区民会議を設置なさいというがあるので、区民会議条例ができました。

区民会議条例ができる時も議会がもめました。議員がいる中で第2の市議会議員会議みたいになってしまうのではないかと、いろいろな議論がありましたけれども、それも話をいろいろまとめていく中で今の形になったわけでありまして。10年が過ぎたということで、見直しが必要かということで議論があったわけでありましてけれども、今のはやりの言葉ではありませんが、一応リセットするということでありまして。リセットするということは、今までのものに何か課題があった、問題があり過ぎたのではないかとというようなことを基本にして、新たな取り組みがされるということになるろうかと思えますので、私たち、委員会でどういう説明があったか、その中でどういう議論があったか、わかりません。しかし、区民会議条例という条例がある以上、まず、条例をどうするかということを経済の中で話し合わなければいけないことであって、区民会議、一時休止しますということは、議会で決まったわけではありませぬし、委員会でそういう決議ができたわけでもないの、私はこれは議会無視の方向に進んでいるのではないかなと思っておりますので、ここでの答弁は結構でございますけれども、唐突に出てきたということは、委員会の内容はわかりませんが、議会の代表として私は理解できないなという思いであります。

成田委員長 松原参与、ありがとうございました。非常に貴重な御意見をいただきました。今いただきました意見につきまして、今後の区民会議に反映させていただければと思います。どうもありがとうございます。

それでは、皆様に協力いただきまして、円滑な議事を進めることができましたことに、副委員長ともども感謝申し上げます。

では、以上をもちまして第6回中原区区民会議を閉会いたします。皆様、最後までありがとうございました。お疲れさまでした。

午後4時25分 閉会